

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2870600265		
法人名	株式会社 ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとび庵 西神戸		
所在地	神戸市長田区長尾町2丁目13-14 (電話)078-646-9555		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年9月10日

【情報提供票より】 (20年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 6 月 15 日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	30 人	常勤20人, 非常勤 10人, 常勤換算	26.4人

(2) 建物概要

建物構造	R.C 造り
	4階建ての 全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (6月10日現在)

利用者人数	36 名	男性	9 名	女性	27 名
要介護1	4	要介護2	19		
要介護3	8	要介護4	3		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 81.1 歳	最低	59 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸朝日病院・内田歯科医院・新長田クリニック・荻原みさき病院
---------	--------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>住宅街の中の傾斜地にある兵庫県下最大の4ユニットのGHである。職員全員が現場で活かせる具体的な理念「より良い介護」「感動ある介護」を掲げ、地域から信頼されるグループホーム、歓迎されるサービスの提供を運営方針として毎年理念に沿った課題、目標を設けて取り組んでいる。入居者が集う共有空間は広々と明るくゆったりとした雰囲気で一入ひとりがそれぞれの時間を過ごされている。日々の生活は本人が決められることを優先しながら利用者のペースを大切に、一人ひとりの訴えに耳を傾けた支援がなされている。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前回の評価で指摘を受けた事項については管理者・職員が評価結果について意見交換を行い、実現可能なところから改善に向けて取り組みを実施している。今年度のは職員と共に業務を振り返りながら自己評価を行い管理者がまとめた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>職員と共に業務を振り返りながら自己評価を行い管理者がまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議は年間計画を立て利用者・家族の代表・地域包括センター・地域住民代表(民生委員)・事業所の代表・知見を有する方が参加して開催している。運営推進会議に話せる事を日々業務の中で行っていく。ホームからは利用者の様子・行事・研修・日頃の運営・事故報告など行い、メンバーからの意見を運営に取り入れている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>苦情受付票を設置し、家族からの意見・苦情に対応するようにしている。ハード面の意見はあるが、クレームはない。家族の意見・要望に対しては結果を説明し理解得ている。職員には家族の些細な意見も聴く工夫をするように指導している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>自治会・地域の夏祭りへの参加・ボランティアの受け入れ・近隣の清掃を行うなど地域にとけ込んでいる。また、花見・夏祭り・クリスマス会などホーム行事の案内状を地域に配布するなど積極的に地域との交流を図っている。民生委員から認知症介護の相談を受け、地域に認知症への理解を深めるなど、地域との支えあいを重視している。</p>

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	[より良い介護]、「感動ある介護」を理念としてフロアーの見やすい所に掲げ、地域住民との交流を深めている。基本理念を基に、日常のケアを提供する上での拠りどころとして、理念の実現に向けて取り組んでいる。		制度改正により地域との交流の下でに改められ、地域との関係性が重視されることから、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっていることが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング・委員会等で常に理念について話し合い、理念の具体化に向けて努力している。フロアーごとに長・短期の目標を設定し課題目標に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・地域の夏祭りへの参加・ボランティアの受け入れ・近隣の清掃を行うなど地域に与えている。また、花見・夏祭り・クリスマス会などホーム行事の案内状を地域に配布するなど積極的に地域との交流を図っている。民生委員から認知症介護の相談を受け、地域に認知症への理解を深めるなど、地域との支えあいを重視している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘を受けた事項については管理者・職員が評価結果について意見交換を行い、実現可能などから改善に向けて取り組みを実施している。今年度は、職員と共に業務を振り返りながら自己評価を行い管理者がまとめた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画を立て利用者・家族の代表・地域包括センター・事業所の代表・地域住民の代表者（民生委員）・知見を有する方が参加して開催している。運営推進会議に話せる事を日々業務の中で行っていく。ホームからは利用者の様子・行事・研修・日頃の運営・事故報告など行い、メンバーからの意見を運営に取り入れている。		
6	9	市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	養護老人ホームや救護施設からの入居相談等を受けているので、区の担当課より連絡もある。独居の方との契約の際も相談をしている。行政主導で福祉関連の各代表で構成されている長田区ネットワーク会議に出席している。あんすこ小地域連絡会・認知症の早期発見システム検討会にも参加している。長田区として率先してグループホームの専門部会も作った。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ゆうとび庵通信を発行している。個々については家族の状況に合わせて電話や手紙で報告している。健康状態の変化などの対応については主治医・家族・施設長で話し合っている。突発的なことがあった時もすぐに家族に報告し相談して対処している。施設長の携帯電話をオープンにしていつでも連絡がとれるようにいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問の際に利用者の日々の生活の状況を説明し、家族の意見・要望を聞き、双方の関係がより良いものになるように支援してる。苦情受付票を設置し、家族からの意見・苦情に対応するようにしている。ハード面の意見はあるが、クレームはない。家族の意見・要望に対しては結果を説明し理解を得ている。職員には家族の些細な意見も聴く工夫をするように指導している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の施設内でフロアの異動はあるが大きな異動は無く、混乱はない。人材確保が難しい現状の中で、施設長は職員面接を行い、また施設長は自ら職員の悩みの緩和のために、私的な面の相談をうけるなど、職員個々に配慮を行い人材確保に努めている。また職員一人ひとりの能力を伸ばす取り組みも行っている。永年勤続表彰制度もあり、職員の定着率も良い。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を目指し、現任・新人の年間計画を立て実施し、職員の能力向上に向けた取り組みがある。研修実施後は、レポートを作成している。職員個々の目標をを把握し、資格助成制度もあり、働きながらの学びの環境づくりが整備されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は地域包括支援センター主催の会議に参加をして同業者と交流や地域のグループホームの代表としてネットワーク会議で行政との連携を図っている。また他のホームを訪問し相互の交流を図っている。職員も小地域の連絡会に出席している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族から入居者の生活歴や得意なことを聴き、日々の生活の中で本人の興味のあること、出来る事を見極め自然な形で共に支えあう関係作りに努めている。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族から入居者の生活歴や得意なことを聴き、日々の生活の中で本人の興味のあること、出来る事を見極め自然な形で共に支えあう関係作りに努めている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本情報やアセスメントシートから利用者個々の意向や希望を把握し、日々の生活の中で思いを傾聴し、本人の意向に沿えるよう努めている。日課計画表を作成し、個別のケアを実践し、利用者の心身の状況に応じて自己決定が出来るよう支援している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のこれまでの生活背景を大切にしながらアセスメントを行い、ご本人やご家族の意向をもとに個別の介護計画を作成している。作成された介護計画は家族の同意を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月に1回)な見直しを行い、全職員把握している。職員全員で実施している。急な変化についてはその都度見直ししている。個別に実践にしている事を書式に残し、1ヶ月に1回モニタリングで見直し現状に即した計画作成を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々 <sup>の</sup> 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への通院への同行、希望に沿った個別の外出支援を実施している。また、認知症の理解を深めて頂く為、地域へ出向き講義や講演を行っている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関への受診を支援している。職員はご家族と共に受診に同行し連絡帖や医療連携用の記録をもって情報を共有している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に伴う「看取りの同意書」を作成し、状況の変化に応じ本人をはじめご家族や関係機関と繰り返し話し合いを行いながら対応している。</p>		<p>重度化や終末期に向けた事業所の方針を明文化したマニュアルを作成し、職員教育を行い、統一した理解と認識が望まれる。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>新任研修や現任研修にて、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。守秘義務については、雇用契約書の中に謳い退職後も秘密保持を徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人が決められることを優先しながら利用者一人ひとりのペースを大切にしている。職員側の業務が優先しないよう一人ひとりの訴えに耳を傾けた対応をしている。会話が困難な人には希望・意向をしぐさや表情から汲み取るよう努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に育てた野菜を使って一緒に料理したり、盛り付けや片付けなどを、それぞれができることを協同して行っている。食事内容については、食事委員会を実施し「ふりかえり」を行い、美味しいものを楽しく食べることができるよう努力している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の習慣や希望に沿った入浴支援を心がけている。午後から毎日入浴できるようになっており、個浴で基本的に同性介助とし、入浴を嫌がられる方には羞恥心やプライバシー保護に配慮しながら入浴していただけるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活背景から、習慣や希望、有している力を踏まえて、一人ひとりの楽しみごとになり得るよう、食事準備や園芸(きゅうり・なすび・トマト作りや水やり)などの役割を担ってもらうようにしている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の外出支援を積極的に実施している。近くの散歩だけでなく、馴染みの喫茶店・お好み焼き屋さん・お墓参り・美容院など心身の活性に繋がるようまた、生き生きと過ごせるような外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さを理解した上で、入居者の安全を確保した対応を行っている。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練(夜間想定含む)が実施されている。地域の協力体制については運営推進会議などで協力を呼びかけている。備蓄については、緊急用持出袋を準備している。今後は、毛布や食べ物の備蓄も検討していく予定。		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し情報を共有している。むせたり、飲み込みが悪くなってきた方に対しては、キザミ・ミキサー・トロミ食などで対応し必要な栄養素が摂れるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集う共有空間は広々と明るくゆったりとした雰囲気ですっきりと一人ひとりがそれぞれの時間を過ごされている。共有空間には、外出した際の写真や季節の飾りがなされ、自分自身が住む家であることの意識を高めてもらえるよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みのある家具（仏壇・時計・TV・ソファ・炬燵）などを生活しやすいように置き、安心して、また、居心地よく過ごせるよう支援している。		

 は、重点項目。